

不二子におまかせ!?!

鬼首島の秘密編



リーバイス渡辺

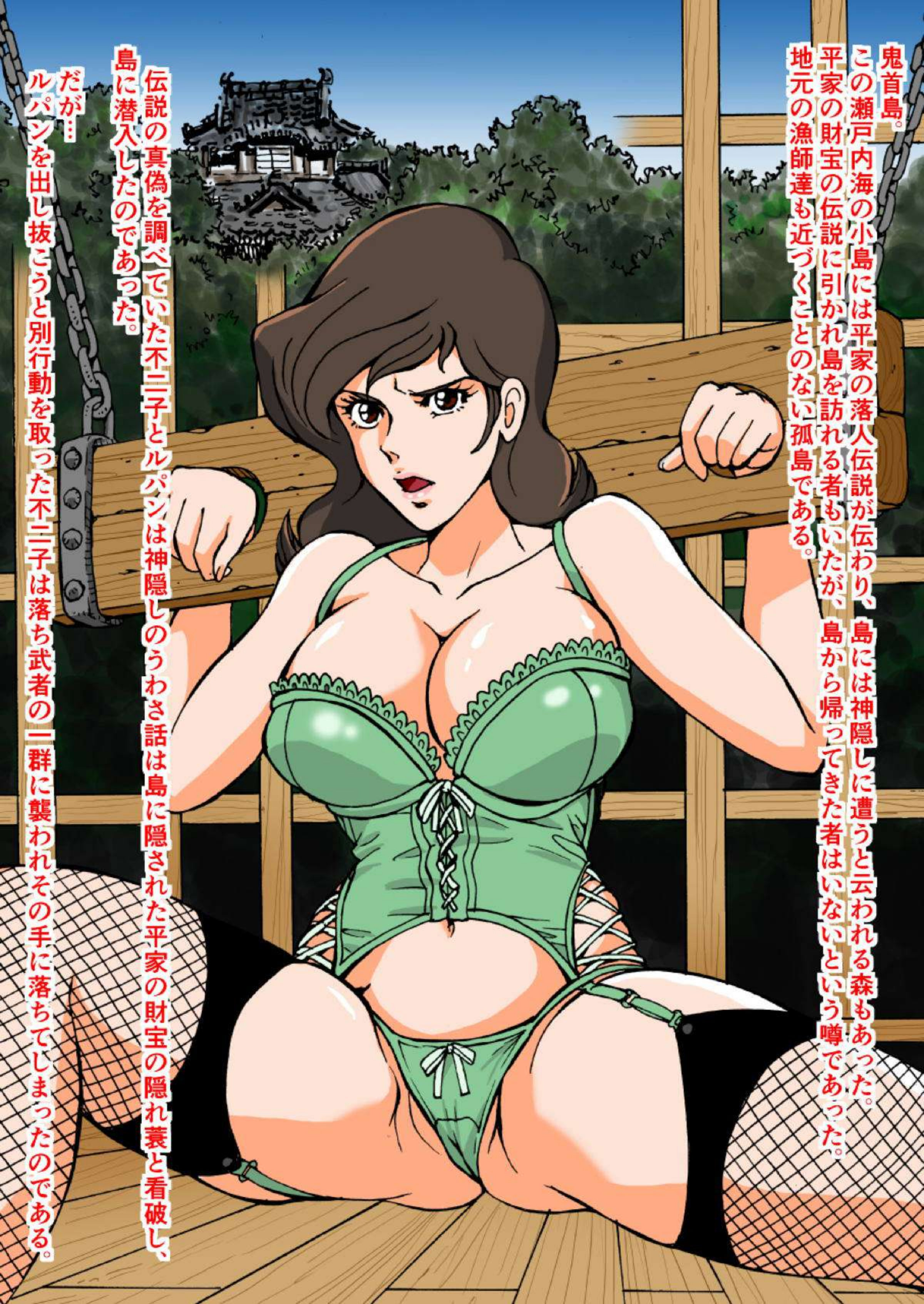
鬼首島。

この瀬戸内海の小島には平家の落人伝説が伝わり、島には神隠しに遭うと云われる森もあった。平家の財宝の伝説に引かれ島を訪れる者もいたが、島から帰ってきた者はいないという噂であった。地元の漁師達も近づくことのない孤島である。

伝説の真偽を調べていた不二子とルパンは神隠しのうわさ話は島に隠された平家の財宝の隠れ蓑と看破し、島に潜入したのであった。

だが…

ルパンを出し抜こうと別行動を取った不二子は落ち武者の一群に襲われその手に落ちてしまったのである。



目を覚ました不二子は辺りの様子に目を見張った。木の檻格子に板の間。そこはまるで江戸時代の牢獄のようだった。格子の外の岩壁が滲み出した水で鈍く光っていた。不二子の手首と足首には重い木製の枷が嵌められていた。黒光りする手枷と足枷は古い物らしく角はすり減って丸くなっている。

…んんんはっ…

目が覚めたようだな
女ネズミ

不二子が監禁されている牢に二人の男が入ってきた。入って来たのは平家の子孫、平元磨とその世話役頭玄白であつた。

落ち武者は玄白が率いる元磨の家臣達であつた。島の平家の落人伝説は全て事実であつたのである。神隠しの噂は平氏の末裔達が宗家の血筋を絶やさぬよう女を攫って起きた噂であつた。玄白は当代の当主元磨の血筋を残すため幾人もの若い女を攫っていた。



たいらのもとまろ

げんぱく

だが、肝心の元鷹は昆虫採集と標本造り以外には興味を示さない愚鈍な主であった。寝所に女を連れて行っても標本にするために殺してしまおうのである。

その為、家臣達は女を蝶に喩え性交を標本造りに置き換え、指南していたのである。

なかなか
美しいな

じい
種付けを行なうぞ

いやっ
寄らないでよ！
この変態！！

不二子はその何人目かの獲物であった。元鷹の血筋を残す為の。女に興味を持たない元鷹にとって不二子は一匹の美しい蝶であった。



標本造りではまず標本体の洗浄が必要である。元磨は愛用の浣腸器を取り出し薬液を満たした。ゆうに1ℓは入りそうな巨大な浣腸器であった。

身動きできない不二子の直腸に大量の浣腸液が注入されていく。薬液の冷たい感触に不二子の全身から冷や汗が吹き出す。薬液は直ぐに効果を現し始め、不二子は薬液で膨らんだ下腹を振るわせ始める。冷や汗が脂汗に変わっていく。

強靱な意志の力を持ってしても薬液の作用による生理現象を押さえる事は不可能な事であった。

いやあつ

やめてえ

悲鳴とも吐息ともつかぬ声を上げ全身を振るわせると不二子は茶褐色の液体を噴出させた。桶の中におびただしい量の液体が濁音を立て撒き散らされると牢の中には異臭が漂った。元磨は不二子の出したものを確認すると再び浣腸器を取り上げ薬液を満たした。不二子が噴出させる液体が透明に変わるまで元磨は執拗に浣腸を繰り返していった。不二子の気力と体力は薬液とともに桶の中に垂れ流されていった。

浣腸で糞出しをして内蔵をきれいにせねばな

元磨は小さな壺を取り上げ、フタをひらいた。中には琥珀色のねっとりとした油のようなものが入っている。元磨は手に取ると不二子の体に塗りに塗りたくり始めた。繰り返された浣腸で体力を使い果たした不二子は抵抗をする事も出来ず、体中を弄られ油を塗りたくられていく。

これで肌を磨き上げてより美しくせんと

!!!

不二子は自分の体の変化に気付いた。

全身の毛穴が開き、体が熱く燃えるようだった。それにもない、おぞましい元磨の指先の感触が愉悦を伴ったものに変わってきたのだ。

不二子の体は不二子の意志に反して荒い息づかいを上げ、腰を動かし始めた。

不二子の敏感な部分は元磨の指を迎え入れるように口を開き油とは違う白濁した液体を自ら滴らせ始めていた。

元磨が目配せすると玄白はうやうやしくうなずき天井から下がっている鎖の二本を引く。
板の間が開き、木馬が迫り出て来た。
おびただしい女達の汗と体液を吸ったのであろう黒光りする木馬の中央には巨大な陰茎を模した張り型がそびえ立っていた。

あがあ!!!

はぐううう!!

不二子はゆっくりとその上へと降ろされていく。

呻き声を上げ、弓なりに身体を反らせながら張り型を飲み込んでいく。

張り型は元磨に塗られた油と太ももまでしたたる不二子自身の体液でさしたる抵抗も無く不二子の中に埋没していった。

不気味な含み笑いを上げながら元磨は天井から下がる鎖の二本を引く。

床下から鈍い音が響き張り型が上下に動き始めた…。

翌日も元麿の不三子への偏執的拷問は続いた。両手に烏の羽毛で造った羽箒を持ち、不三子の腋、脇腹と足。全身を執拗に撫でていく。涙と涎を垂らし身悶える不三子を元麿は愉悦の嗤いを見上げてくすぐり続けていく。

固くなってる
四肢をほぐさねばな

お願い
やめてええ！

不三子は発狂せんばかりにのたうち失禁と失神を繰り返した。

ひんひんひんひん

あひひひひひひ
ひひひひひひ

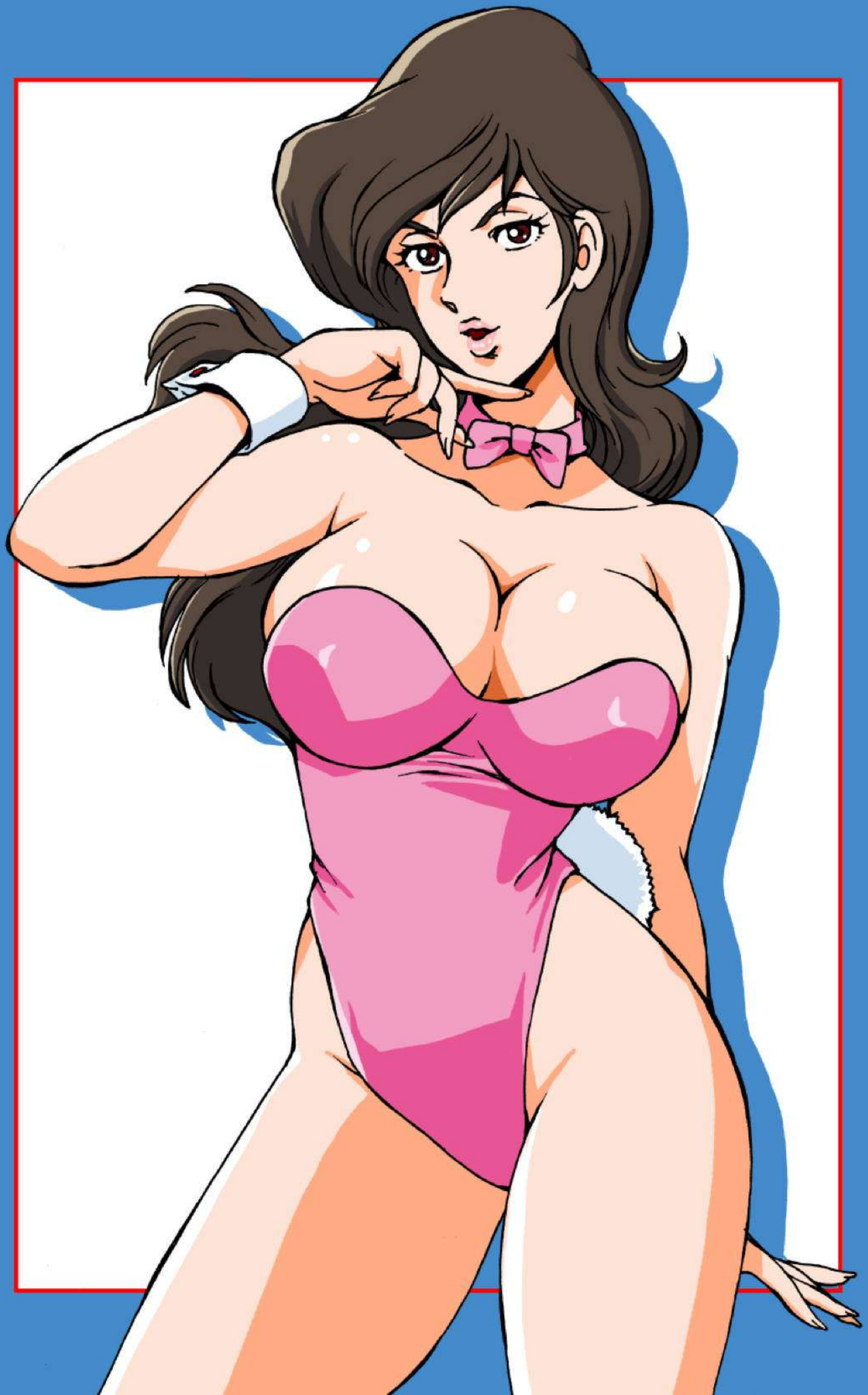
昼夜を違わぬ元麿の変態的拷問によって不二子の体力と気力は尽き果てていた。囚われの不二子は今や美しい獲物、蝶に成り果てていた。元麿の歪んだ欲望を受け入れるだけの蝶に…。

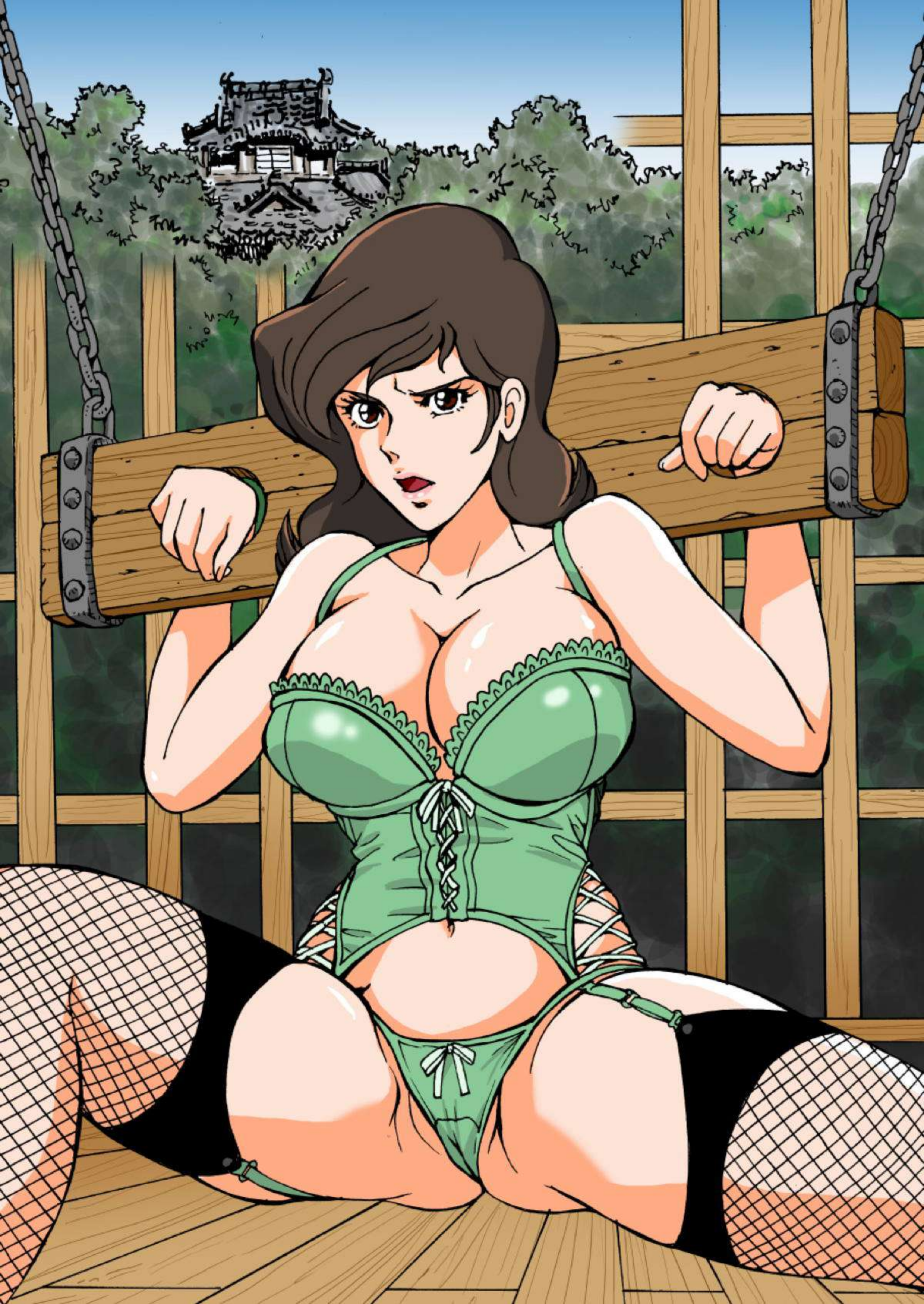
若の注射針
この注射針ですぞ
これを蝶のあの部分に
刺すのです

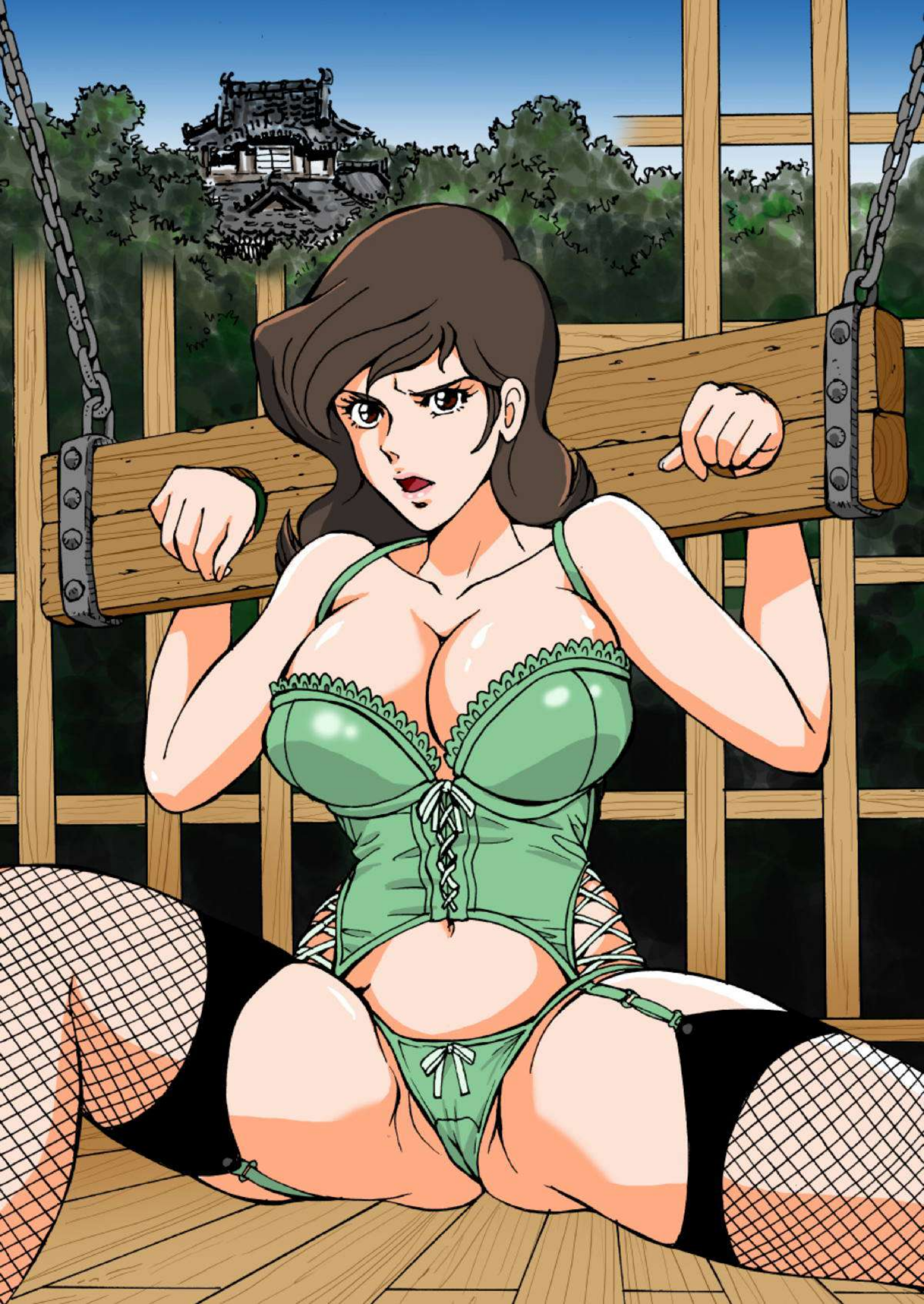
爺！こうか？
このように
注射すれば
いい標本に
なるのだな

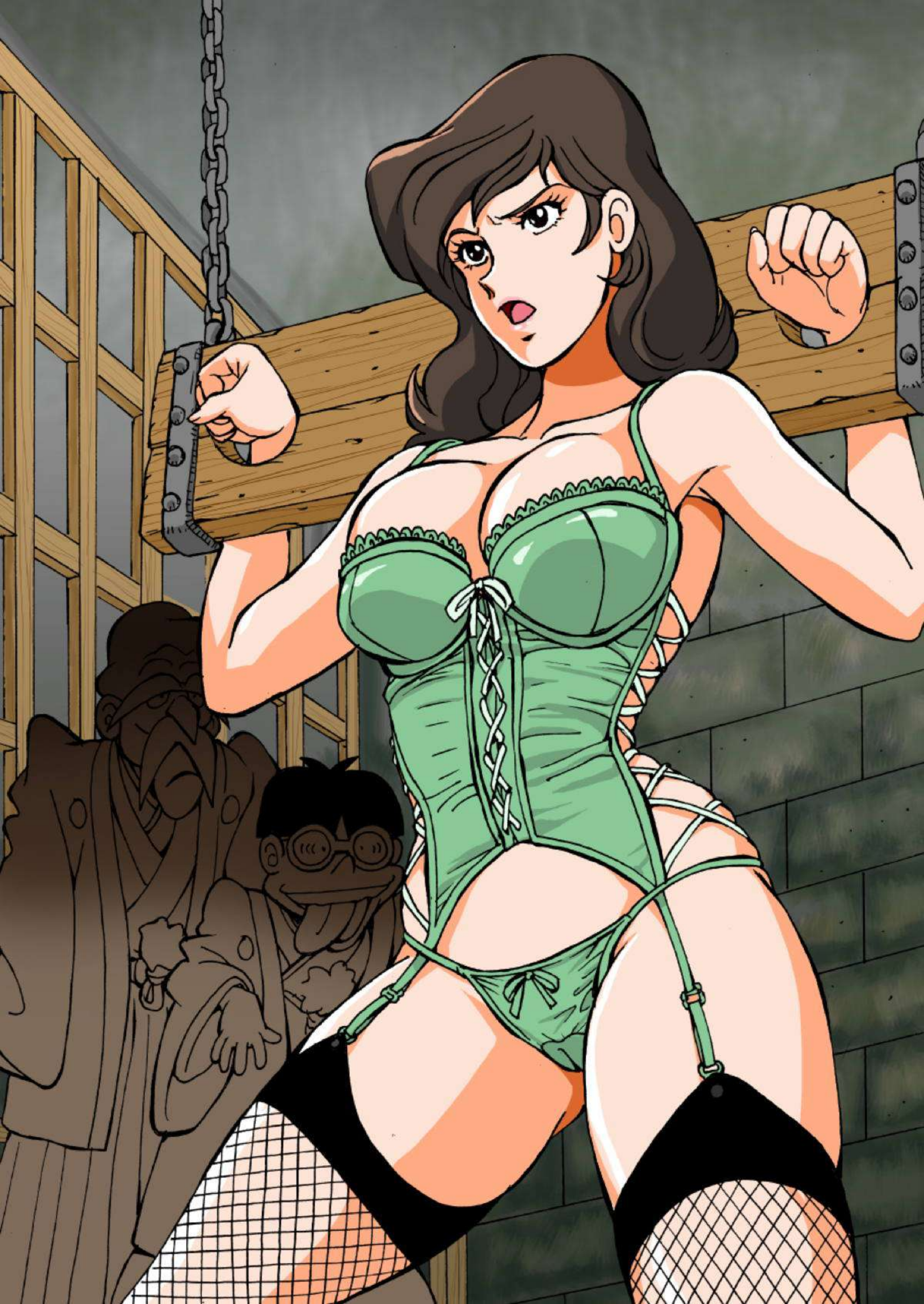
さようございませう
もつと腰を動かして

ありつただけの欲望を不二子に注ぎ込んだ元麿が不二子を標本にする為に殺虫剤を満たした巨大な注射器を取り上げ不二子に迫った時、元麿は物も言わずゆっくりと不二子の前に崩れ落ちた。元麿の尻には麻醉薬の満たされた巨大な注射器が突き刺さっていた。不二子は寸でのところでもルパンに救出されたのであった。不二子はルパン達と共に財宝を手に島を脱出した。島には元麿とその臣下達。そして廃墟と化した城だけが残されたのだった。























2017年4月29日発行
著者 リーバイス渡辺
発行人 水無月あきら
発行 立派堂

<http://www007.upp.so-net.ne.jp/okachimentai/ko/>
禁無断転載 18歳未満閲覧禁止